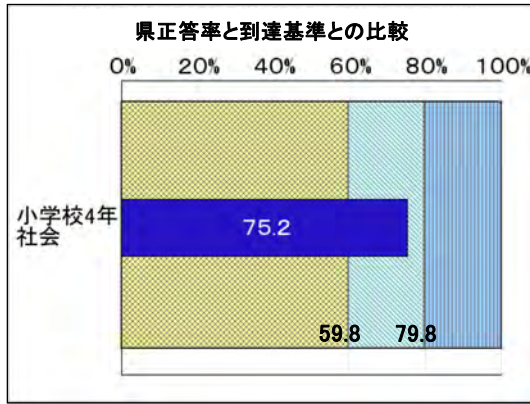


1 小学校社会

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

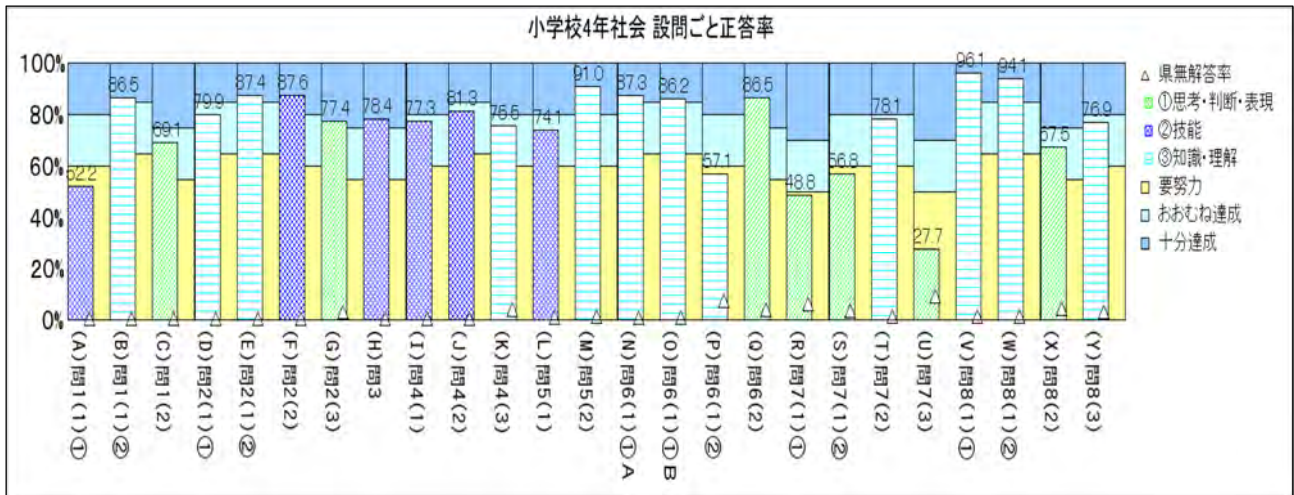
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	表現	社会的な思考・判断・	知識・理解	選択式	短答式					
1 (1)①	地図から、学校周辺の様子を読み取ることができる	○					○	○	○			80	60	52.2	0.3	●
1 (1)②	主な地図記号を理解している(神社)	○					○	○	○			85	65	86.5	0.3	◎
1 (2)	地図記号の知識を基に、実際の土地の様子を考え、適切な絵地図を選択することができる	○					○		○		○	75	55	69.1	0.5	
2 (1)①	販売の仕事に見られる工夫について理解している(売り場の広い通路)	○						○	○			85	65	79.9	0.4	
2 (1)②	販売の仕事に見られる工夫について理解している(大きな文字)	○						○	○			85	65	87.4	0.4	◎
2 (2)	資料から、品物の産地について読み取ることができる	○					○		○			80	60	87.6	0.6	◎
2 (3)	資料を基に、消費者のニーズに合わせた販売の工夫について説明することができる	○					○			○	○	75	55	77.4	2.9	◎
3	市の畑で作られている野菜を調べるために、必要な資料を選択することができる	○						○	○			75	55	78.4	0.3	◎
4 (1)	ごみの処理について疑問に思ったこと、それを調べる方法との適切な組み合わせを選択することができる			○				○	○			80	60	77.3	0.4	
4 (2)	資料から、ごみの出し方を読み取ることができる			○				○	○			85	65	81.3	0.3	
4 (3)	資源ごみを再利用するリサイクルについて理解している			○					○	○		80	60	75.5	3.7	
5 (1)	グラフから、水使用量の変化と人口の変化を読み取ることができる			○				○	○			80	60	74.1	0.8	
5 (2)	浄水場の働きを理解している			○					○	○		80	60	91.0	1.4	◎
6 (1)① A	人々の安全を守る仕事について理解している(交通安全教室)				○				○	○		85	65	87.3	0.7	◎
6 (1)① B	人々の安全を守る仕事について理解している(パトロール)				○				○	○		85	65	86.2	1.0	◎
6 (1)②	警察の施設の1つである交番を理解している				○				○	○		80	60	57.1	7.4	●
6 (2)	資料を基に、子どもたちの安全を守るための工夫が行われている理由について説明することができる				○		○			○	○	75	55	86.5	3.7	◎
7 (1)①	資料を基に、通信指令室へ連絡が入る理由について説明することができる				○		○				○	70	50	48.8	6.3	●
7 (1)②	連絡の内容を表す資料を基に、通信指令室からの連絡先を考えることができる				○		○			○		80	60	56.8	3.6	●
7 (2)	消防署員が、火事の現場へ素早く駆け付けけることができる工夫について理解している				○				○	○		80	60	78.1	1.4	
7 (3)	資料を基に、消防団員の減少による課題について説明することができる				○		○				○	70	50	27.7	9.3	●
8 (1)①	古くから残るくらしに関わる道具を理解している(かまど)					○			○	○		85	65	96.1	1.2	◎
8 (1)②	古くから残るくらしに関わる道具を理解している(火鉢)					○			○	○		85	65	94.1	1.4	◎
8 (2)	昔と今の道具を示した資料を基に、人々のくらしの変化について説明することができる					○	○			○		75	55	67.5	4.3	
8 (3)	佐賀県の祭りや行事を理解している					○			○	○		80	60	76.9	3.1	

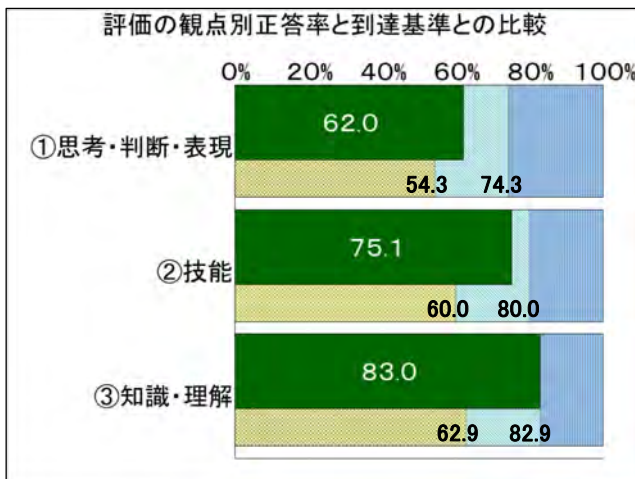
○ 設問ごと正答率



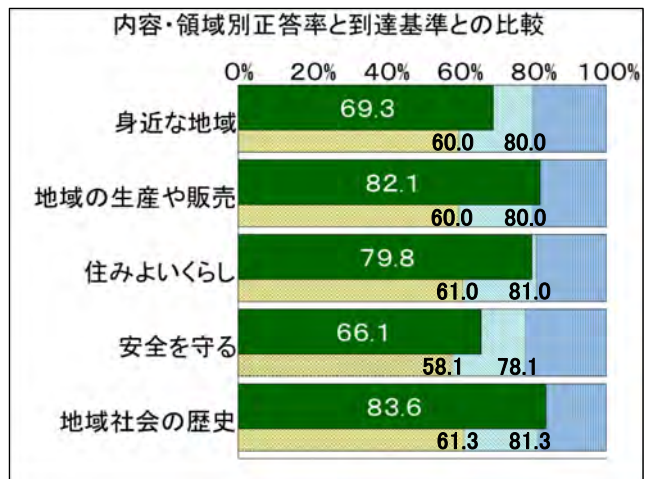
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

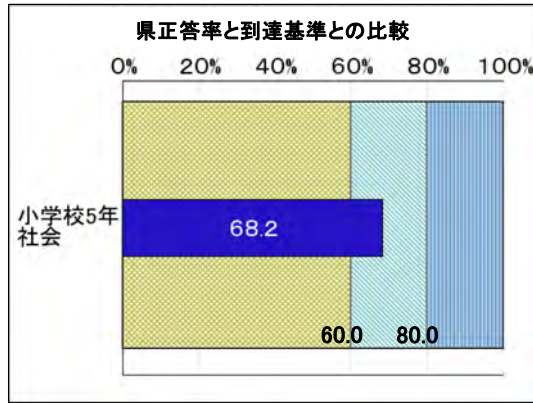


○ 内容・領域別正答率



② 小学5年生

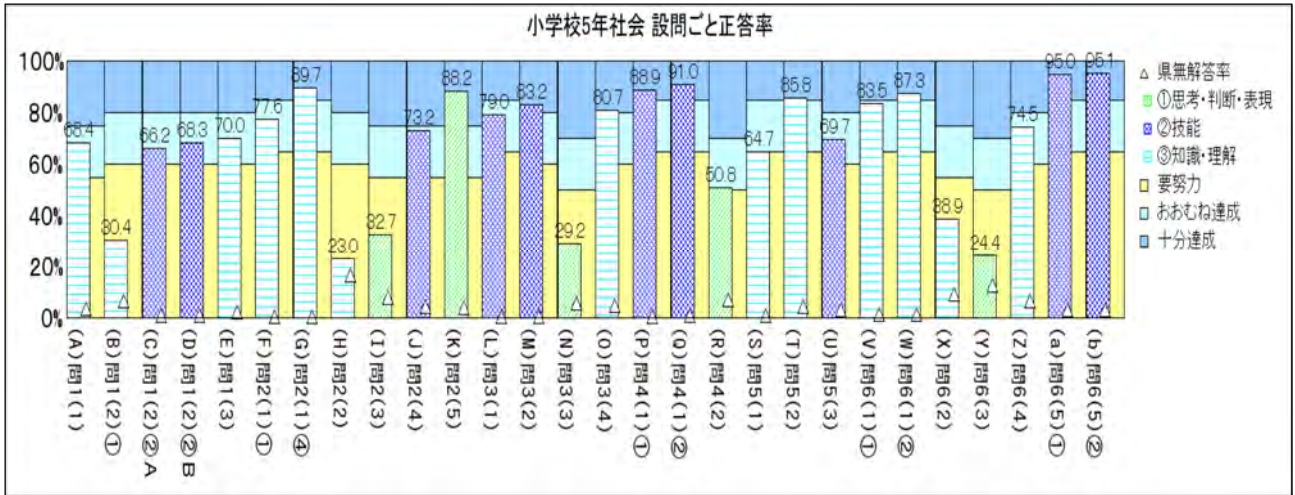
○ 教科全体正答率



○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題		正答率	無解答率	到達状況		
		県の様子(3・4年)	国土の様子	生活	食料生産の様子と国民生活	工業の様子と国民生活	表現	社会的な思考・判断	観察・資料活用	知識・理解	社会的な事象についての	選択式	短答式				記述式	十分達成
1 (1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している	○						○	○					75	55	68.4	3.6	
1 (2)①	佐賀県に面している海の名称と位置を理解している	○						○		○				80	60	30.4	6.7	●
1 (2)②A	地図から県内の土地利用の様子を読み取ることができる(土地の高さが100m未満の場所)	○						○		○				80	60	66.2	0.8	
1 (2)②B	地図から県内の土地利用の様子を読み取ることができる(土地の高さが400m以上の場所)	○						○		○				80	60	68.3	0.8	
1 (3)	都道府県の名称と位置を理解している	○								○	○			80	60	70.0	2.1	
2 (1)①	米作りの作業について理解している(苗づくり)			○						○	○			85	65	77.6	0.4	
2 (1)④	米作りの作業について理解している(稲刈り)			○						○	○			85	65	89.7	0.4	◎
2 (2)	農業だけで収入を得ている農家が専業農家であることを理解している			○						○	○			80	60	23.0	16.4	●
2 (3)	資料を基に、農業機械の所有台数の減少に着目した質問を考えることができる			○			○					○	○	75	55	32.7	7.8	●
2 (4)	資料から、日本の農業の問題点を読み取ることができる			○				○				○		75	55	73.2	4.4	
2 (5)	資料を基に、農作業の時間が短くなった理由について説明することができる			○				○				○	○	75	55	88.2	4.0	◎
3 (1)	資料から、水揚げ量が多い漁港を読み取ることができる			○						○				85	65	79.0	0.5	
3 (2)	資料から、日本の漁業別生産量の変化を読み取ることができる			○						○				80	60	83.2	0.5	◎
3 (3)	資料を基に、栽培漁業を行う理由について説明することができる			○				○				○	○	70	50	29.2	5.6	●
3 (4)	トラックで魚を運ぶ際の工夫について、その理由を理解している			○						○				80	60	80.7	4.7	◎
4 (1)①	資料から、米の自給率を読み取ることができる			○						○				85	65	88.9	0.6	◎
4 (1)②	資料から、大豆の自給率を読み取ることができる			○						○				85	65	91.0	0.7	◎
4 (2)	資料を基に、茨城県産のピーマンが大阪府より東京都へ多く出荷されている理由を説明することができる			○				○				○	○	70	50	50.8	7.0	
5 (1)	日本の工業の種類について理解している					○				○	○			85	65	64.7	0.7	●
5 (2)	工業地帯や工業地域が集まっている所が太平洋ベルトであることを理解している					○				○	○			85	65	85.8	4.3	◎
5 (3)	資料から、大工場と中小工場の工場数や生産額の違いを読み取ることができる					○				○				80	60	69.7	2.9	
6 (1)①	自動車の生産過程について理解している(組み立て)					○				○	○			85	65	83.5	1.5	
6 (1)②	自動車の生産過程について理解している(溶接)					○				○	○			85	65	87.3	1.5	◎
6 (2)	自動車工場が現地で生産している理由を理解している					○				○				75	55	38.9	9.2	●
6 (3)	資料を基に、自動車の燃費が向上することが環境を守ることにつながる理由について説明することができる					○	○					○	○	70	50	24.4	12.6	●
6 (4)	自動車工業と関わりがある工場が関連工場であることを理解している					○				○				80	60	74.5	6.7	
6 (5)①	資料から、自動車会社の取組の工夫を読み取ることができる(福祉)					○				○				85	65	95.0	2.9	◎
6 (5)②	資料から、自動車会社の取組の工夫を読み取ることができる(安全)					○				○				85	65	95.1	2.9	◎

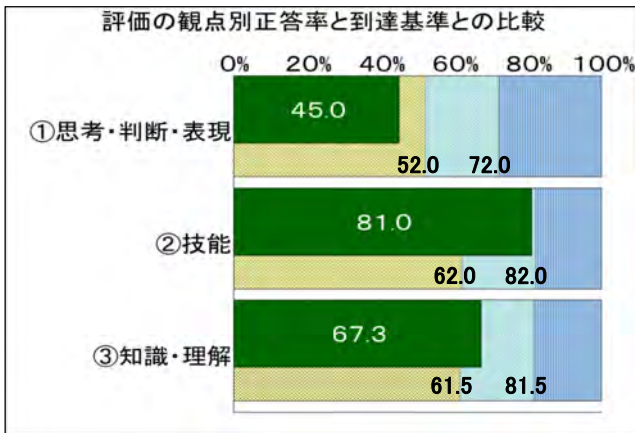
○ 設問ごと正答率



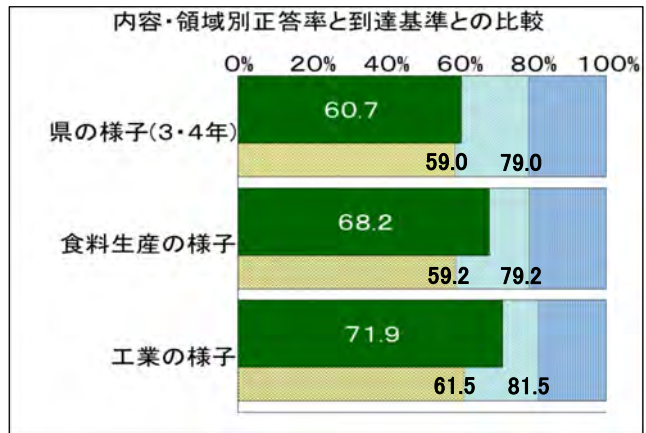
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

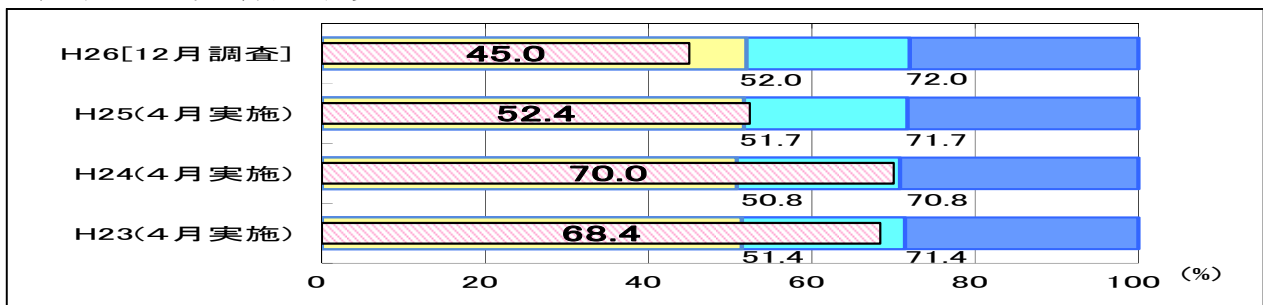


○ 内容・領域別正答率

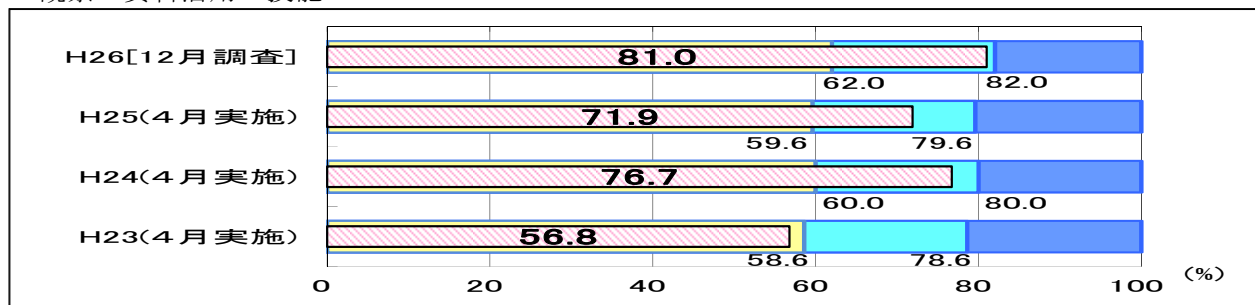


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

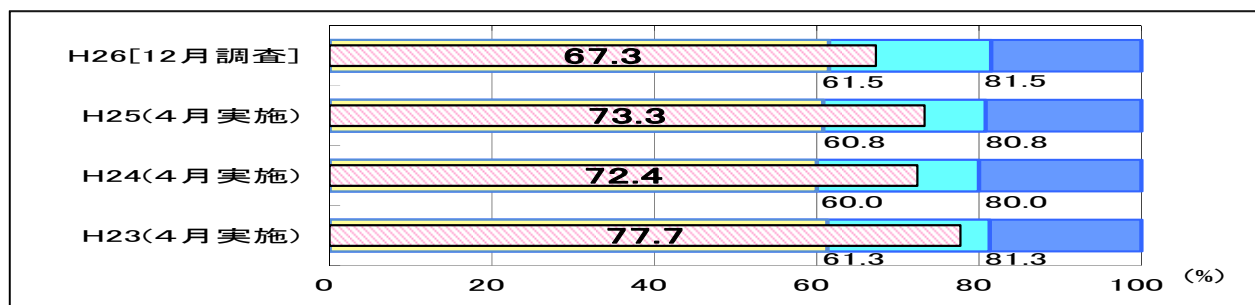
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能

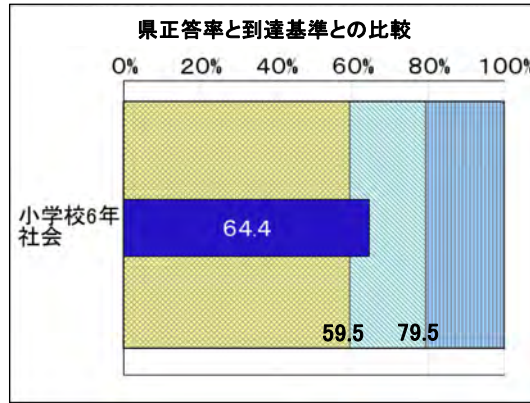


社会的事象についての知識・理解



③ 小学6年生

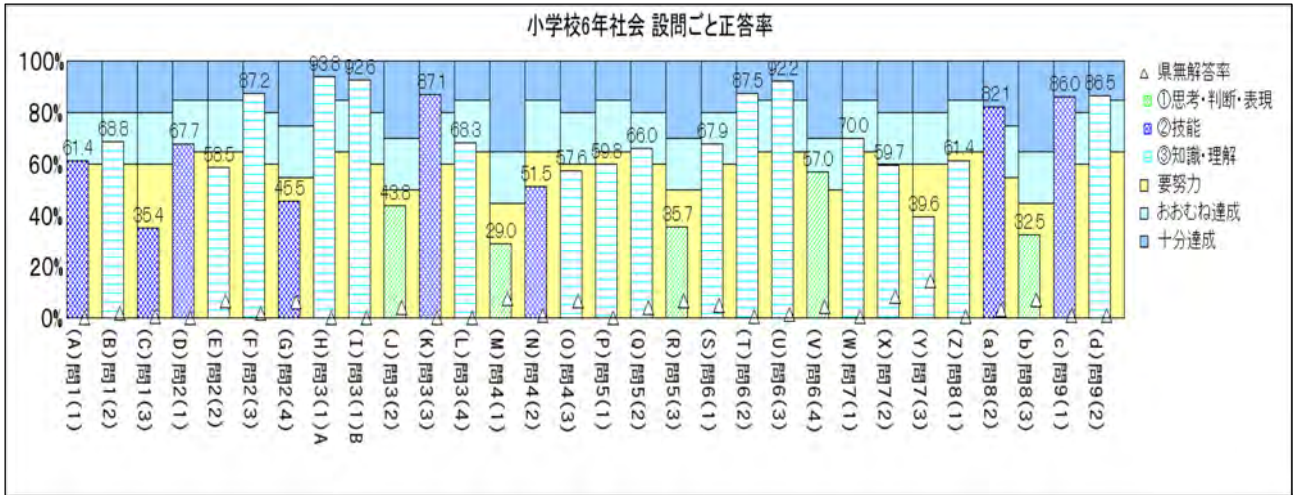
○ 教科全体正答率



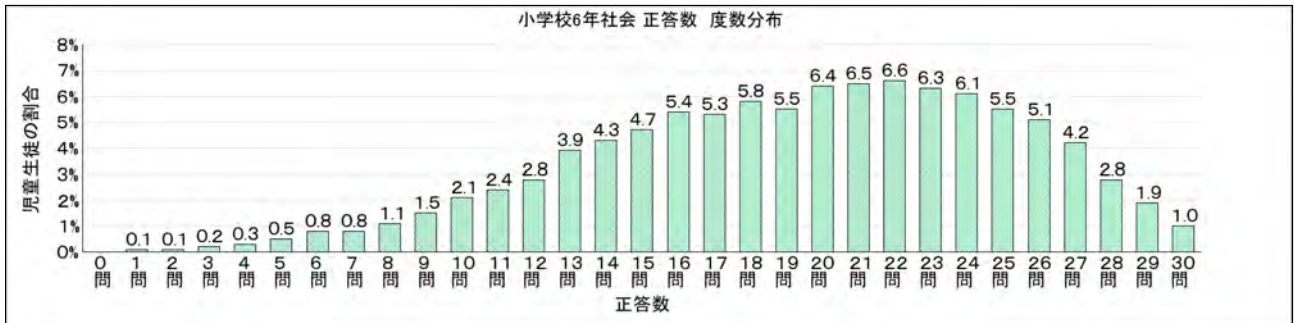
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点			問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史	表社会的な思考・判断・	観察・資料活用	知識・理解	社会的な事象についての	選択式	短答式					
1 (1)	資料から、日本の国土の範囲を読み取ることができる	○		○		○				80	60	61.4	0.2	
1 (2)	北方領土の問題について理解している	○				○		○		80	60	68.8	1.6	
1 (3)	資料から、日本海側の気候の特色を読み取ることができる	○				○		○		80	60	35.4	0.5	●
2 (1)	資料から、弥生土器の特徴を読み取ることができる		○			○		○		85	65	67.7	0.1	
2 (2)	卑弥呼が治めていた国が邪馬台国であることを理解している		○			○		○		85	65	58.5	6.4	●
2 (3)	古墳が、豪族の墓であることを理解している		○			○		○		80	60	87.2	1.7	◎
2 (4)	資料から、大和朝廷により国土の統一が進められたことを読み取ることができる		○			○		○		75	55	45.5	6.3	●
3 (1) A	大化の改新の内容について理解している(中大兄皇子)		○			○		○		85	65	93.8	0.0	◎
3 (1) B	大化の改新の内容について理解している(天皇)		○			○		○		80	60	92.6	0.0	◎
3 (2)	貴族の食事の内容を基に、各地の産物が税として都に運ばれてきていたことを説明することができる		○	○				○	○	70	50	43.8	4.1	●
3 (3)	資料から、正倉院の建物を選ぶことができる		○			○		○		80	60	87.1	0.1	◎
3 (4)	源氏物語の作者が紫式部であることを理解している		○			○		○		85	65	68.3	0.2	
4 (1)	資料を基に、平氏を倒すために源頼朝のもとに多くの兵が集まった理由について説明することができる		○	○				○	○	65	45	29.0	7.6	●
4 (2)	資料から、平氏が滅亡した壇ノ浦の場所を選ぶことができる		○			○		○		85	65	51.5	1.0	●
4 (3)	御恩と奉公の関係について理解している		○			○		○		80	60	57.6	6.5	●
5 (1)	南蛮貿易の様子を理解している		○			○		○		85	65	59.8	0.2	●
5 (2)	豊臣秀吉が刀狩を行った理由について理解している		○			○		○		80	60	66.0	3.9	
5 (3)	資料を基に、江戸幕府が行った大名の配置の工夫を説明することができる		○	○				○	○	70	50	35.7	6.4	●
6 (1)	歌川広重が描いた東海道五十三次の「日本橋」が浮世絵であることを理解している		○			○		○		80	60	67.9	4.9	
6 (2)	古事記伝の作者が本居宣長であることを理解している		○			○		○		85	65	87.5	0.3	◎
6 (3)	伊能忠敬が精密な日本地図を作ったことを理解している		○			○		○		85	65	92.2	1.2	◎
6 (4)	資料を基に、江戸時代には本を読むことができる人々が増加した理由について説明することができる		○	○				○	○	70	50	57.0	4.3	
7 (1)	ペリーが来航した浦賀の位置を理解している		○			○		○		85	65	70.0	0.4	
7 (2)	不平等な条約の内容について理解している		○			○		○		80	60	59.7	8.1	●
7 (3)	明治政府が進めた工業を盛んにし強い軍隊を持つという政策が、富国強兵であることを理解している		○			○		○		80	60	39.6	14.4	●
8 (1)	大日本帝国憲法制定に尽力した人物が伊藤博文であることを理解している		○			○		○		85	65	61.4	0.5	●
8 (2)	資料から、製糸工場に働いていた人々にとっての問題点を読み取ることができる		○			○		○		75	55	82.1	3.2	◎
8 (3)	資料を基に、日露戦争後結ばれた条約によって国民が不満をもった理由を説明することができる		○	○				○	○	65	45	32.5	7.1	●
9 (1)	資料から、戦時中の国民の生活を読み取ることができる		○			○		○		80	60	86.0	0.8	◎
9 (2)	原子爆弾の被害に遭った広島、長崎の位置を理解している		○			○		○		85	65	86.5	0.8	◎

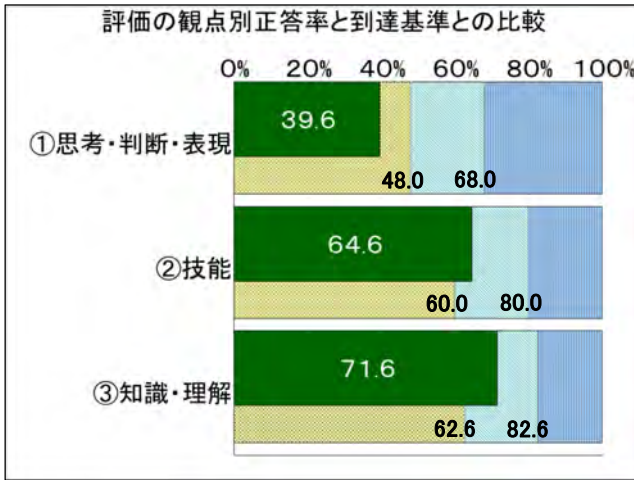
○ 設問ごと正答率



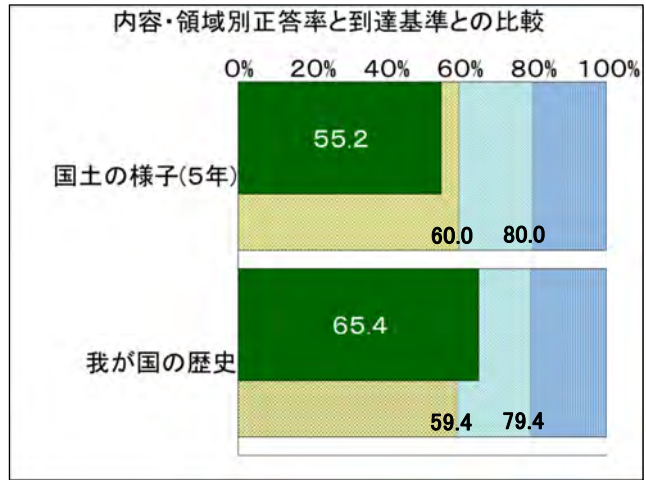
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

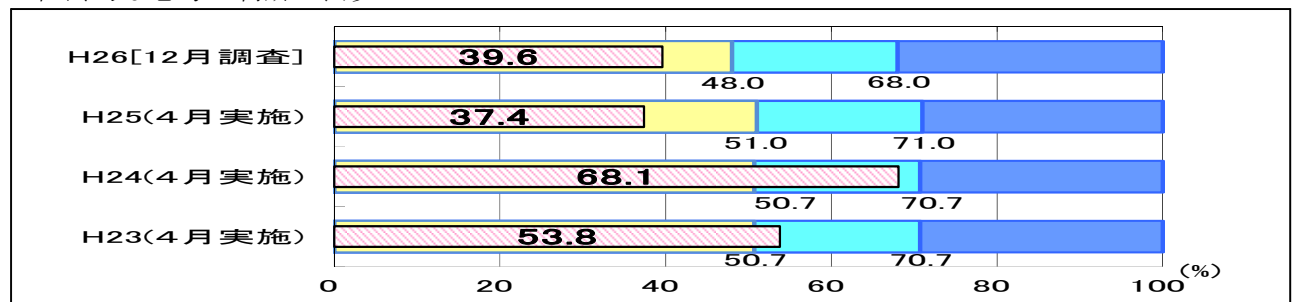


○ 内容・領域別正答率

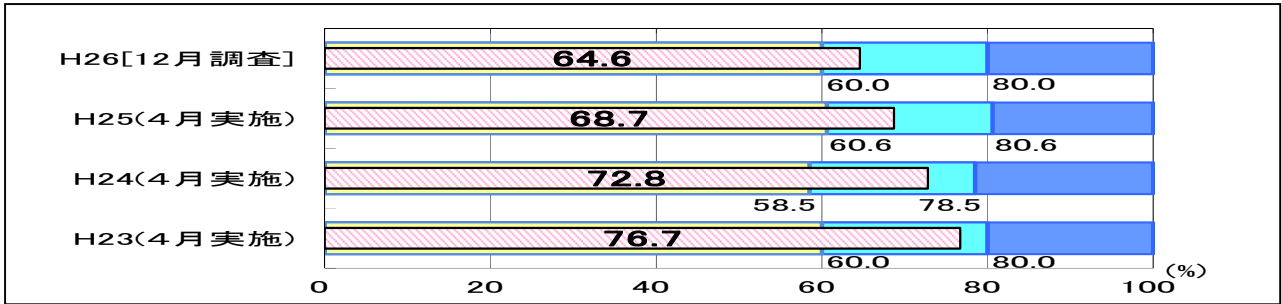


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

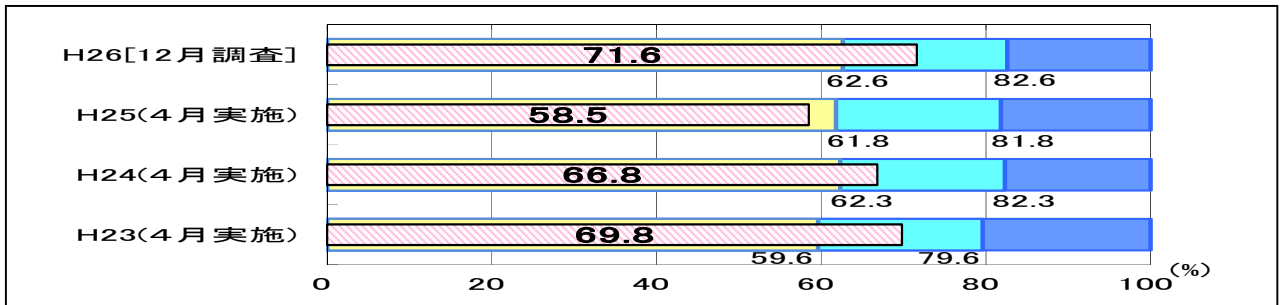
社会的な思考・判断・表現



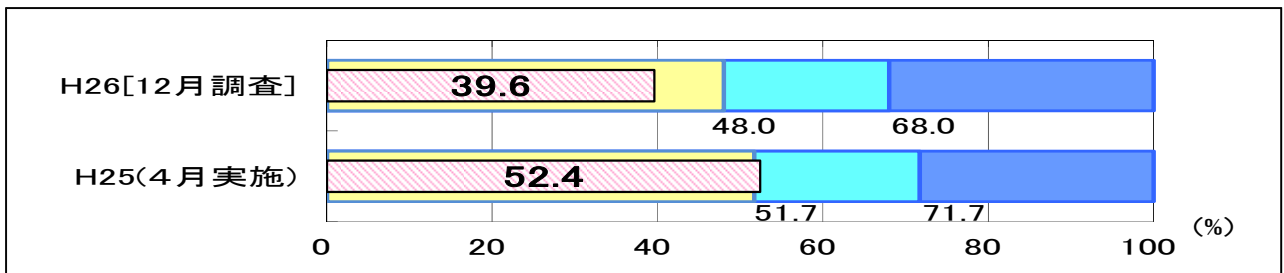
観察・資料活用の技能



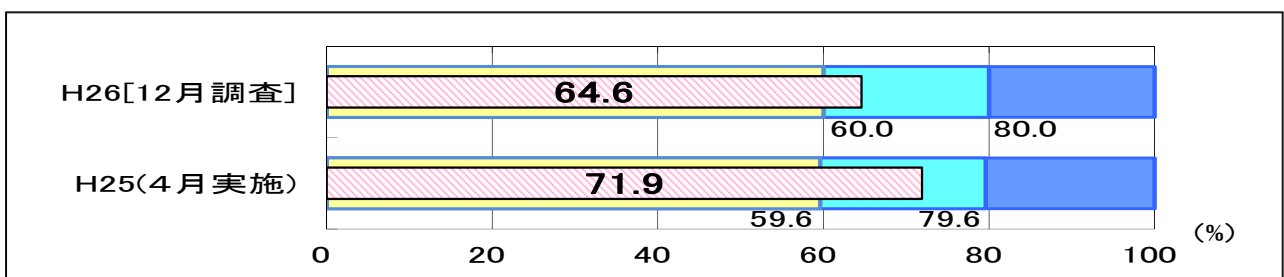
社会的事象についての知識・理解



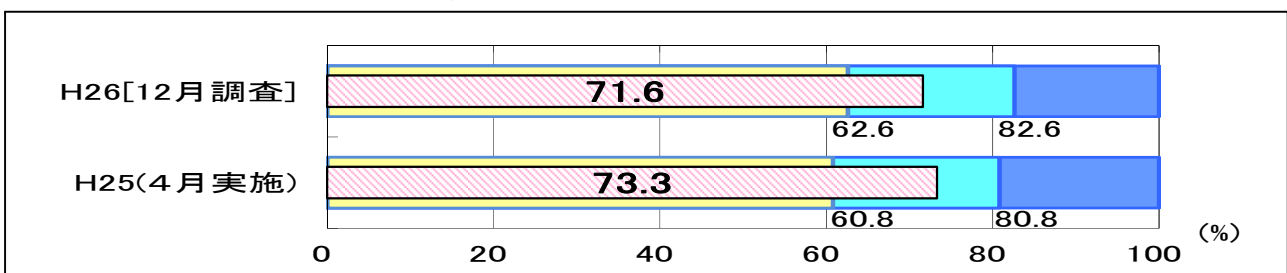
- 評価の観点別正答率(同一児童)
- 社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能



社会的事象についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 小学校全体

- 全ての学年において、評価の観点「観察・資料活用の技能」と「社会的事象についての知識・理解」が、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。特に、小学4年生の「社会的事象についての知識・理解」については、「十分達成」の到達基準を上回っていた。また、平成25年度調査において課題として挙げられていた小学6年生の「社会的事象についての知識・理解」については、平成26年度[12月調査]では、「おおむね達成」の到達基準を上回っており、改善が見られた。
- 小学6年生の「社会的な思考・判断・表現」については、平成25年度調査において「おおむね達成」の到達基準を下回り課題として挙げられていたが、平成26年度[12月調査]も「おおむね達成」の到達基準を下回っており引き続き課題が見られた。また、小学5年生の「社会的な思考・判断・表現」についても、平成26年度[12月調査]は「おおむね達成」の到達基準を下回っており課題が見られた。

② 小学4年生

- 内容・領域別正答率については、全ての内容・領域において「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。特に、「地域の生産や販売」と「地域社会の歴史」においては、「十分達成」の到達基準を上回っていた。
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」については、社会的事象の特色や相互の関連において説明することに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問7 (1)①	資料を基に、通信指令室へ連絡が入る理由について説明することができる。 (記述式)	119番の電話が、全て消防局の通信指令室につながる理由について考え、記述する。	48.8	6.3	70.0	50.0

・ 解答状況

119番の電話が全て消防局の通信指令室につながることにについては、理解していると考えられる。しかし、資料から通信指令室から消防署や警察署などの関係諸機関へ情報を迅速に一括して送ることができることのよさを読み取ることができず、その理由について記述できなかったと推察される。

・ 改善・充実に向けて

関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制を取っていることを指導するには、緊急事態が発生した時には、一刻を争って事態に対処していることを具体的に調べさせることが大事である。資料から、連絡の経路だけでなく情報を迅速に伝えるための工夫について考えさせるような指導が必要である。

また、無解答率が6.3であった。授業の中に自分の考えを記述させるような活動を取り入れることが必要である。その際、何に着目して書くのかなど、観点を示すことが効果的である。

- 評価の観点「観察・資料活用の技能」については、「おおむね達成」の到達基準を上回っていたが、「十分達成」の到達基準は下回っていた。中でも、資料から必要な情報を読み取ることに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問1 (1)	地図から、学校周辺の様子を読み取ることができる。 (選択式)	太郎さんの学校から見て、駅や工場がどの方位にあるか選ぶ。	52.2	0.3	80.0	60.0

・ 解答状況

地図は普通、北を上に表示することや四方位で方位を表すことについては、多くの児童が理解しているものと思われる。しかし、地図上のある場所を基にその他の建物などがどの方位にあるのかを読み取ることが難しかったためと推察される。

・ 改善・充実に向けて

方位については、最初に四方位を扱い、八方位については小学4年生修了までに身に付けるようにするものである。その場合に知識として指導するだけにとどまらず、観察、調査した結果を地図に表したり地図を読み取ったりする際に活用できるようにすることが必要である。

③ 小学5年生

- 内容・領域別正答率については、全ての内容・領域において「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 評価の観点「社会的事象についての知識・理解」については、自分が通う小学校がある市や町の佐賀県内における地理的位置を問う問題を到達基準を1として同一学年の経年比較をすると、平成24年度調査から平成26年度[12月調査]にかけて改善が見られた。
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」については、「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。中でも、社会的事象の意味について説明することに課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問2 (3)	資料を基に、農業機械の所有台数の減少に着目した質問を考えることができる。 (記述式)	質問した内容を、資料と農家の方からの答えを基に考え、記述する。	32.7	7.8	75.0	55.0

・ 解答状況

資料から農業機械の所有台数の減少を読み取ることができるが、農家の方の答えにある農業機械を共同で購入するということと農業機械の所有台数の減少を関連付けて考えることができなかつたためと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

農業機械を共同で購入するという食料生産に従事している人々の工夫を機械化による費用が掛かるという資料を基にどのように解釈させるかが大事である。資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えることに加え、その原因や理由について考えさせるような指導が効果的である。

④ 小学6年生

- 内容・領域「我が国の歴史」については、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」については、「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。中でも、歴史的事象の意味について説明することに課題が見られた。

・ 問題の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 3(2)	貴族の食事の内容を基に、各地の農産物が税として都に運ばれてきていたことを説明することができる。 (記述式)	貴族がさけやあわびを食べることができた理由を、資料を基に考え、記述する。	43.8	4.1	70.0	50.0

・ 解答状況

「各地の主な産物」と「庶民の負担」の2つの資料から読み取ったことを基に、各地の産物が都に集まってきていたことを税という言葉を使って記述させる問題であった。2つの資料と歴史的背景を関連付けながら、貴族が各地の産物を食べることができた理由を考えることが難しかったためと推察される。

・ 改善・充実に向けて

「各地の産物」の資料からは、魚や貝などの産物が各地で採れていたことを、「庶民の負担」の資料からは、産物を税として納めていたことや都まで運んでいたことを読み取らせ、それらを関連付けて考えさせることが必要である。複数の資料から、共通点や相違点を見付けてその理由を考えさせるような指導が効果的である。

- 評価の観点「社会的事象についての知識・理解」については、「おおむね達成」の到達基準を上回っているものの「十分達成」の到達基準を下回っていた。中でも、歴史的な事象に関わる理解と知識の定着について課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問 7(3)	明治政府が進めた工業を盛んにし強い軍隊を持つという政策が、富国強兵であることを理解している。 (短答式)	明治政府が外国に追いつくように国を豊かにし、強くなるように進めた政策について記述する。	39.6	14.4	80.0	60.0

・ 解答状況

明治政府が、徴兵令、地租改正、官営工場の建設などを基に富国強兵を目指した歴史的背景とそれぞれの政策の関連付けが理解できていない児童が多かったためと推察される。

・ 改善・充実に向けて

徴兵令、地租改正、官営工場の建設などの政策について、大隈重信や伊藤博文らの業績として理解させるとともに、なぜ明治政府は富国強兵を目指したのかということを見習いに考えさせることで、我が国の国力を充実させ、国際的地位を向上させるための国づくりであったことをそれぞれの政策と関連付け、総合的に理解させていく指導が必要である。

(3) 改善のポイント

① 社会的な思考力・判断力・表現力を高めるための指導と評価の工夫

澤井は、社会的な思考力・判断力・表現力に関して「社会科における『考える力』は、もっている知識（理解）や資料活用等で得た情報を、比較・関連づけ・総合して社会的な事象の特色、相互の関連、意味について考える力です。」¹⁾と述べている。また、比較について「比較は、複数の情報を『比べる』思考方法です。」²⁾、関連付けについて「関連づけは、複数の情報を『つなげる』思考方法です。」³⁾、総合について「総合は、学習したことを『まとめる』思考方法です。」⁴⁾と述べている。これらを基に、児童の「考える力」を高めるために、「比較・関連付け・総合」の思考

方法を活用して児童が思考できるような活動やその際の効果的な教師の問いについて、「我が国の農業」を例にして以下の⑦から⑯で述べる。

- ⑦ 比較(比べる)の思考方法を用いた授業では、農業の盛んな地域の様子を比べさせるような活動が考えられる。そこでは、共通点や相違点などに着目させ、「どのような違いがあるだろう」や「同じところはどこだろう」といった問いが効果的となる。
- ⑧ 関連付け(つなげる)の思考方法を用いた授業では、農業の盛んな地域と地形とを結び付けて、社会的事象の意味や背景を考えさせるような活動が考えられる。そこでは、広い平野が広がるといった条件に着目させ、「なぜ、～だろう」や「どのような働き、役割があるのか」といった問いが効果的である。
- ⑯ 総合(まとめる)の思考方法を用いた授業では、農家の人は、「半年かけて養分がいったいの土を作っている」や「毎日見回って水の量を調節している」などの調べて分かった事実を基に、「つまり農家の人は、おいしい野菜を作るためにいろいろな工夫をしている」とまとめさせるような活動が考えられる。そこでは、「つまりどんな工夫があるのか」や「これらをまとめると何がわかるか」といった問いが効果的となる。

このように、学習の目標が達成できるように、1時間の授業の中でどのような活動を仕組み、また、児童にどのような思考方法を基に思考をすればよいのかを教師が考え、意図的に問い掛けることが必要である。さらに、単元を通して児童が思考できるような活動をどのように設定するか、計画的な指導が必要である。

《引用文献》

- 1)2)3)4) 澤井 陽介『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』2013年 図書文化 pp. 62-64

② 歴史的事象に関する知識を定着させるための指導の工夫

これまでの歴史の学習では、断片的な歴史的事象を暗記させ、知識を増やすことに力を入れる指導が見られることがある。このことについて小学校学習指導要領解説社会編には、「先人の業績については、歴史上の人物が当時の世の中の課題を解決し人々の願いを実現していったことを調べたり、調べたことをまとめたりしながら、人物の働きを共感的に理解できるようにすること」⁵⁾と示されている。また、理解という言葉の捉え方として中学校学習指導要領解説社会編には、「『理解』とは、思考や表現の過程なども踏まえて学習内容を十分に分かりながら身に付けることを意味しており、機械的・表面的な「記憶」だけを表すものではない。よく考え納得して身に付けた内容は、単純な記憶やその再生とは違って、焦点や脈絡をもった自分の言葉で表現できるものである。」⁶⁾と示されている。これらのことから、歴史の学習では、人物の願いや業績などを多面的に調べる活動はもちろん、獲得した知識を活用し総合的に考えるような活動を単元の中に意図的に仕組むことが必要である。その中で、人物の生きた時代の様子や歴史的背景などを具体的に理解させることで歴史的事象に関する知識を定着させることが可能になると考えられる。

《引用文献》

- 5) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 平成20年8月 教育出版 p. 70
- 6) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説社会編』 平成20年9月 教育出版 p. 11

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

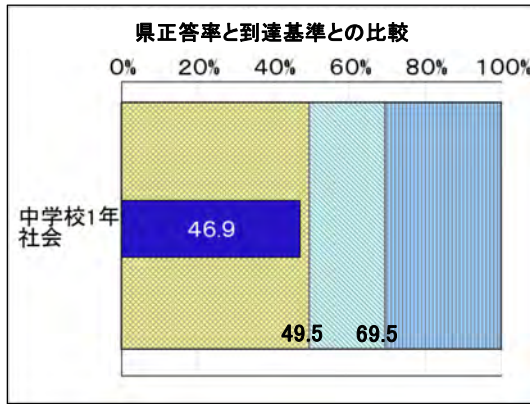
佐賀県教育センターでは、社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を取り入れた授業を提案しています。指導のポイントとして、「社会的な問題に出会わせる手立て」などを取り上げ、発問や板書、ワークシートの工夫を取り入れた実践事例などを紹介しています。

2 中学校社会

① 各学年の調査結果

① 中学1年生

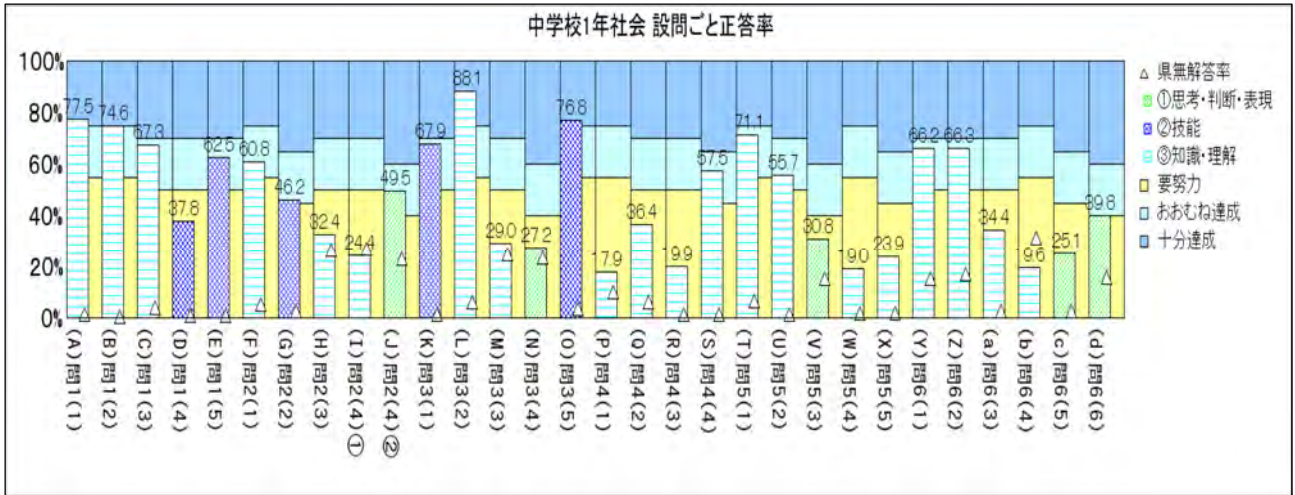
○ 教科全体正答率



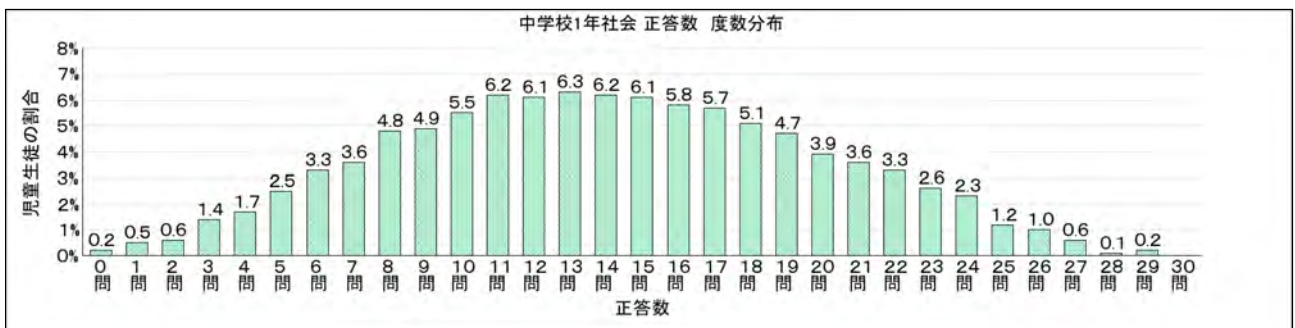
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点		問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況		
		世界の地域構成	(北アメリカ州) (北アメリカ州) (北アメリカ州)	歴史のとらえ方	古代までの日本	表現	社会的な思考・判断	資料活用						社会的現象についての知識・理解	選択式
1 (1)	アフリカ大陸と太平洋の位置と名称を理解している	○						○	○		75	55	77.5	1.2	◎
1 (2)	大陸と海洋の面積の比率を理解している	○						○	○		75	55	74.6	0.3	
1 (3)	経度0度の線が本初子午線であることを理解している	○						○	○		70	50	67.3	3.7	
1 (4)	資料に示された地点の緯度と経度を読み取ることができる	○						○	○		70	50	37.8	0.7	●
1 (5)	地図の索引を用いて、都市の位置を読み取ることができる	○						○	○		70	50	62.5	0.7	
2 (1)	ロッキー山脈の位置と名称を理解している		○					○	○		75	55	60.8	5.4	
2 (2)	資料から、北アメリカ州の気候の特色を読み取ることができる		○					○	○		65	45	46.2	2.6	
2 (3)	アメリカ合衆国にはヒスパニックと呼ばれる移民がいることを理解している		○					○	○		70	50	32.4	26.6	●
2 (4)①	北緯37度より南の先端技術産業が盛んな地域が、サンベルトと呼ばれることを理解している		○					○	○		70	50	24.4	26.8	●
2 (4)②	資料を基に、五大湖周辺で鉄鋼業や機械工業が発展していった理由を説明することができる		○					○	○		60	40	49.5	23.1	
3 (1)	資料から、中国の東部に人口が集中していることや人口の多くを漢民族が占めていることを読み取ることができる			○				○	○		70	50	67.9	1.1	
3 (2)	中国で取られている人口抑制政策が一人っ子政策であることを理解している			○				○	○		75	55	88.1	6.0	◎
3 (3)	東南アジアの国々が経済的に結び付いた共同体が東南アジア諸国連合(ASEAN)であることを理解している			○				○	○		70	50	29.0	25.0	●
3 (4)	資料を基に、東南アジア諸国に日本の企業が進出している理由を説明することができる			○				○	○		60	40	27.2	23.6	●
3 (5)	資料から、サウジアラビアで主に信仰されている宗教がイスラム教であることを読み取ることができる			○				○	○		75	55	76.8	3.4	◎
4 (1)	年代の表し方の「西暦」を理解している			○				○	○		75	55	17.9	9.8	●
4 (2)	年代の表し方の「世紀」を理解している			○				○	○		70	50	36.4	6.3	●
4 (3)	時代区分の「古代」について理解している			○				○	○		70	50	19.9	1.3	●
4 (4)	政治の中心地で時代を区分することを理解している			○				○	○		65	45	57.5	1.3	
5 (1)	石を打ちかいて作った道具が打製石器であることを理解している				○			○	○		75	55	71.1	6.7	
5 (2)	縄文時代の人々の生活の様子について理解している				○			○	○		70	50	55.7	1.4	
5 (3)	資料を基に、縄文時代から弥生時代の生活の変化について説明することができる				○	○			○	○	60	40	30.8	15.2	●
5 (4)	弥生時代を代表する遺跡である吉野ヶ里遺跡について理解している				○			○	○		75	55	19.0	1.7	●
5 (5)	古代の日本で国家が形成されていった流れと中国との関係について理解している				○			○	○		65	45	23.9	1.8	●
6 (1)	聖徳太子の制定した役人の心得が十七条の憲法であることを理解している				○			○	○		70	50	66.2	15.3	
6 (2)	中大兄皇子と中臣鎌足が行った政治改革が大化の改新であることを理解している				○			○	○		70	50	66.3	17.0	
6 (3)	大宝律令により整えられた国家の仕組みについて理解している				○			○	○		70	50	34.4	2.7	●
6 (4)	平城京が唐の都である長安にならってつくられたことを理解している				○			○	○		75	55	19.6	31.5	●
6 (5)	資料を基に、桓武天皇が都を平安京に移した理由を考えることができる				○	○			○		65	45	25.1	2.8	●
6 (6)	資料を基に、藤原氏が行った摂関政治が成立した過程を説明することができる				○	○			○	○	60	40	39.8	15.7	●

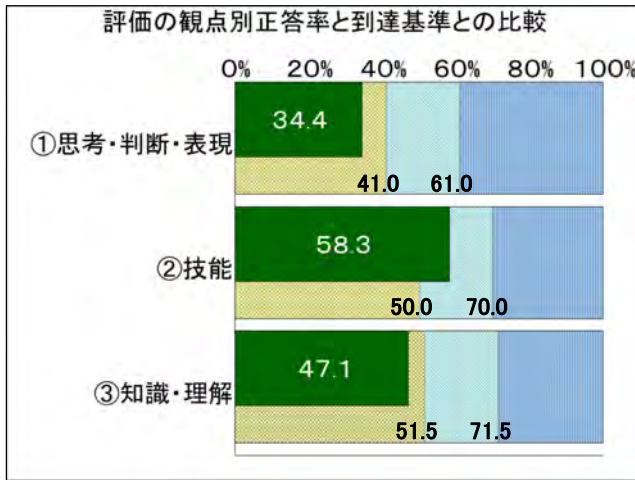
○ 設問ごと正答率



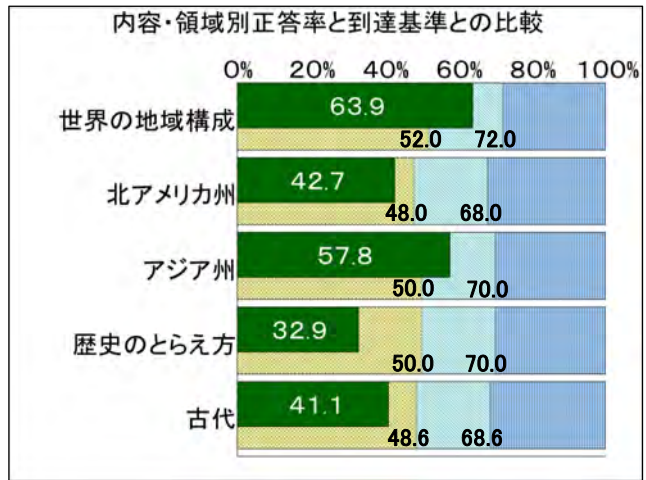
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

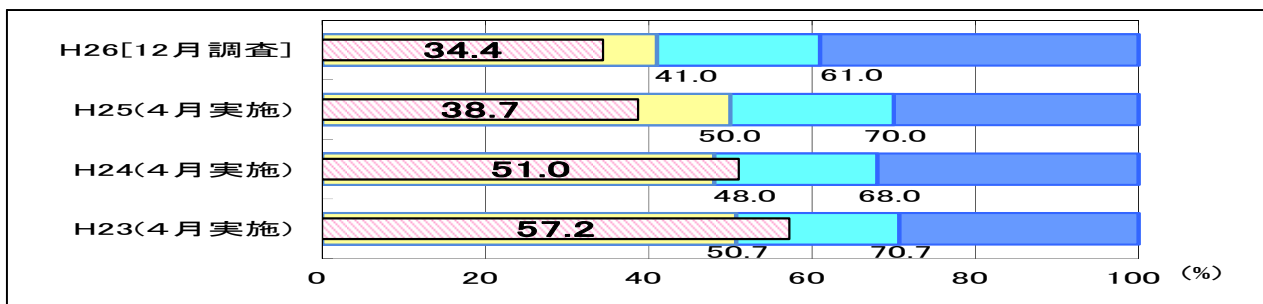


○ 内容・領域別正答率

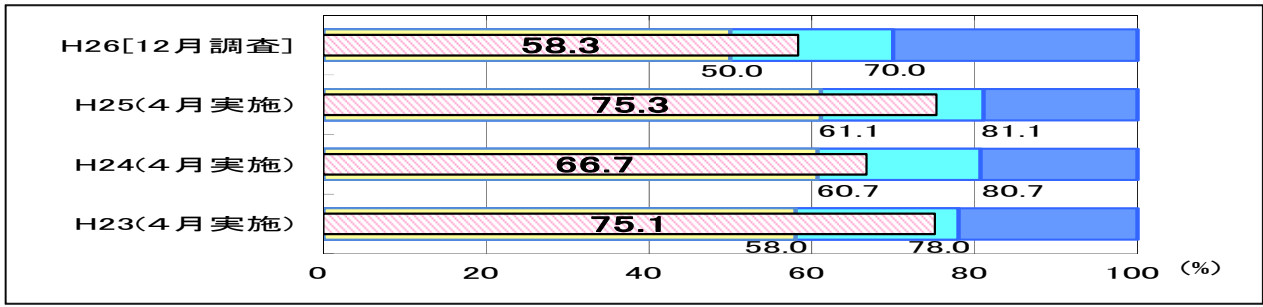


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

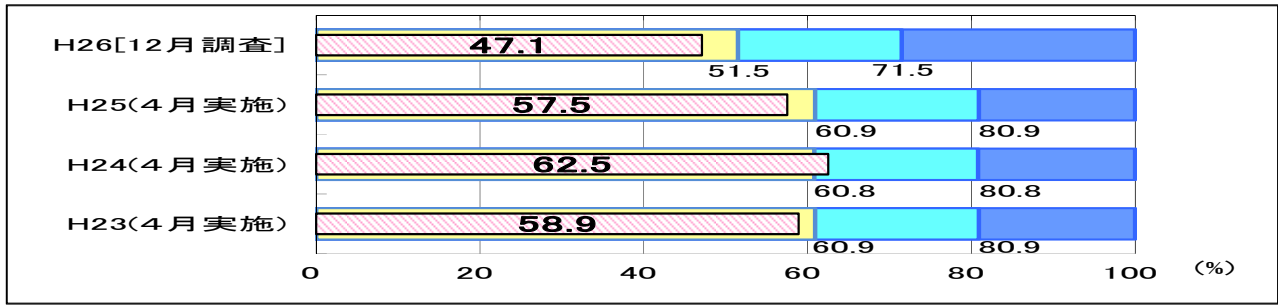
※ 平成25年度(4月実施)までは、小学6年生までの内容で調査。
社会的な思考・判断・表現



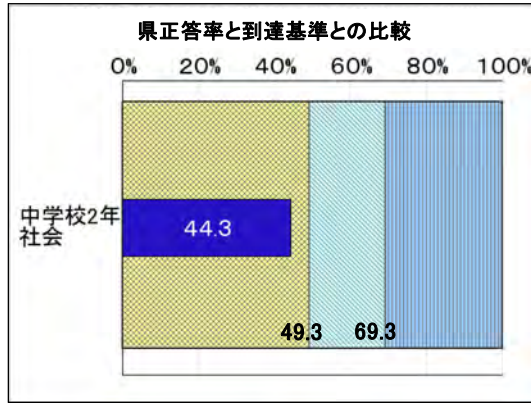
資料活用の技能



社会的事象についての知識・理解



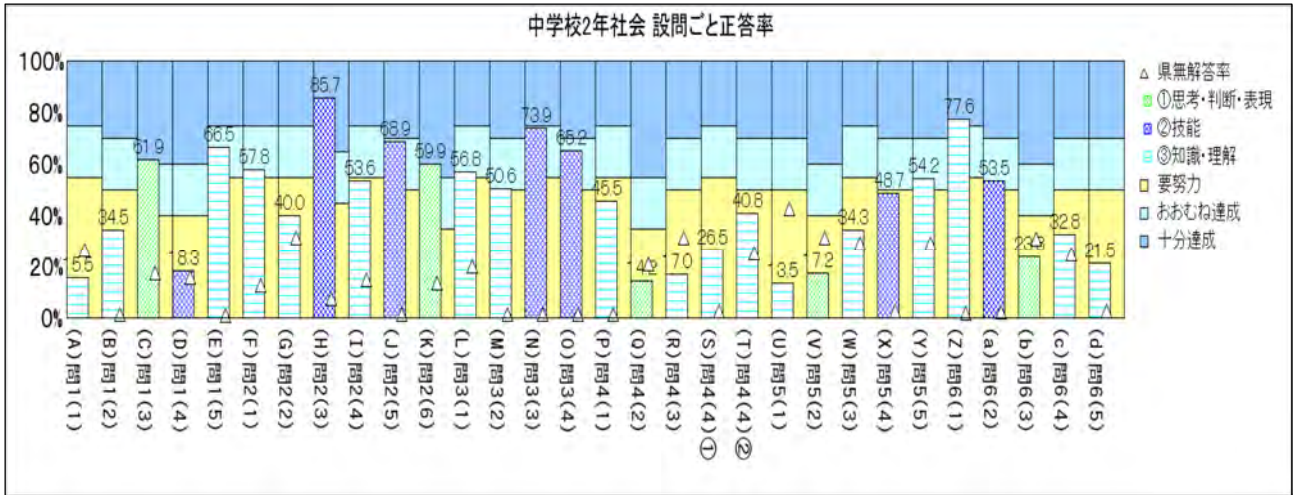
- ② 中学2年生
○ 教科全体正答率



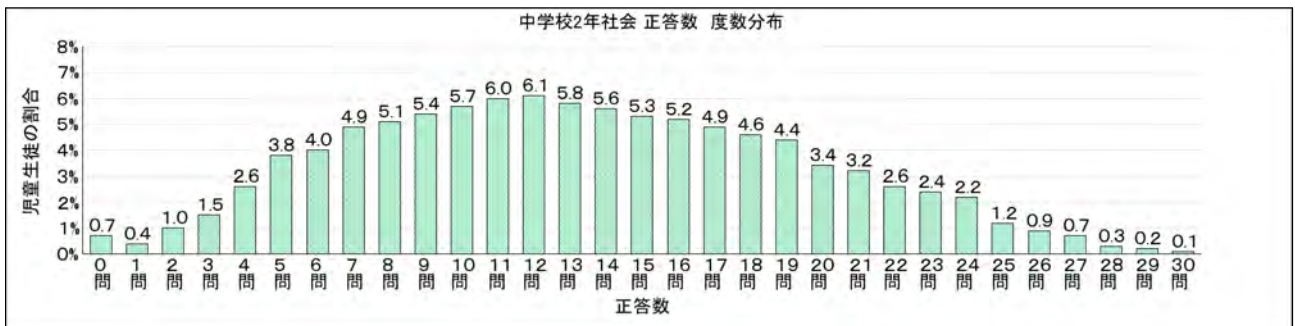
○ 出題の趣旨及び設問ごと正答率等(「◎」は「十分達成」、「●」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率	到達状況	
		日本の地域構成	世界的特色	日本の諸地域	中世の日本	近世の日本	表現	社会的な思考・判断	知識・理解	資料活用	社会的な事象についての						選択式
1 (1)	北方領土である国後島と択捉島の名称と位置を理解している	○						○		○			75	55	15.5	26.6	●
1 (2)	領空の範囲が領土と領海を合わせた範囲であることを理解している	○						○	○				70	50	34.5	1.2	●
1 (3)	資料を基に、日本がブラジルに比べて領土に対する排他的経済水域の面積の割合が大きい理由を説明することができる	○					○			○	○		60	40	61.9	17.4	◎
1 (4)	資料から、ニューヨークが1月1日午前0時の時の日本の時刻を読み取ることができる	○						○		○			60	40	18.3	15.5	●
1 (5)	日本の7地方区分した地図における関東地方と近畿地方の位置と名称を理解している	○						○	○				75	55	66.5	0.9	
2 (1)	日本列島を含み太平洋を取り囲むように連なっている造山帯が環太平洋造山帯であることを理解している		○						○	○			75	55	57.8	12.5	
2 (2)	日本列島の地形を東と西に分ける溝状の地形がフォッサマグナであることを理解している		○						○	○			75	55	40.0	31.4	●
2 (3)	資料から、日本の川が世界の川と比べると長さが短く、傾斜が急であることを読み取ることができる		○						○		○		65	45	85.7	7.4	◎
2 (4)	川が山地から平地へ流れるところに土砂が溜まってできた地形が扇状地であることを理解している		○						○	○			75	55	53.6	15.0	●
2 (5)	資料から、温帯に属している東京の雨温図を読み取ることができる		○						○	○			70	50	68.9	1.4	
2 (6)	資料を基に、日本海側の人々の生活の工夫と気候の特色を関連付けて説明することができる		○					○			○	○	55	35	59.9	13.6	◎
3 (1)	火山の噴火口の周りがくぼんでできた地形がカルデラであることを理解している			○						○	○		75	55	56.8	20.1	
3 (2)	北九州エコタウンの取組について理解している			○						○	○		70	50	50.6	1.4	
3 (3)	資料から、鹿児島県の農業の特色を読み取ることができる			○						○	○		75	55	73.9	1.3	
3 (4)	資料から、宮崎県のピーマン生産農家の工夫を読み取ることができる			○						○	○		70	50	65.2	1.3	
4 (1)	資料から、源頼朝が開いた鎌倉幕府の位置を読み取ることができる			○						○	○		75	55	45.5	1.4	●
4 (2)	資料を基に、承久の乱の後、鎌倉幕府の西国に対する支配が強まった理由を説明することができる			○				○			○	○	55	35	14.2	20.9	●
4 (3)	鎌倉時代に武士の慣習を基につくられた法律が御成敗式目であることを理解している			○						○	○		70	50	17.0	31.5	●
4 (4)①	弘安・文永の役で日本が戦った元について理解している			○						○	○		75	55	26.5	2.7	●
4 (4)②	弘安・文永の役で日本が戦ったときの執権が北条時宗であることを理解している			○						○	○		70	50	40.8	25.1	●
5 (1)	後醍醐天皇が行った政治改革が建武の新政であることを理解している			○						○	○		70	50	13.5	42.5	●
5 (2)	資料を基に、足利尊氏が兵を挙げた理由を説明することができる			○				○			○	○	60	40	17.2	31.5	●
5 (3)	日明貿易で正式な貿易商人かどうかを判断するために使用された勘合を理解している			○						○	○		75	55	34.3	29.3	●
5 (4)	資料から、室町時代の文化の特色を読み取ることができる			○					○	○			70	50	48.7	2.6	●
5 (5)	応仁の乱の頃から見られた風潮である下剋上を理解している			○						○	○		70	50	54.2	29.0	
6 (1)	江戸幕府において、将軍を補佐し政治を行っていた役職が老中であることを理解している			○						○	○		75	55	77.6	1.8	◎
6 (2)	資料から、江戸幕府の大名の配置と支配の工夫について読み取ることができる			○						○	○		70	50	53.5	2.2	
6 (3)	資料を基に、大名が江戸幕府に従い反抗することができなかった理由を説明することができる			○				○			○	○	60	40	23.8	31.0	●
6 (4)	九州地方で起こったキリスト教の弾圧や重い年貢の取り立てに反対した人々の反乱が島原・天草一揆であることを理解している			○						○	○		70	50	32.8	24.9	●
6 (5)	幕府による鎖国政策のねらいについて理解している			○						○	○		70	50	21.5	2.5	●

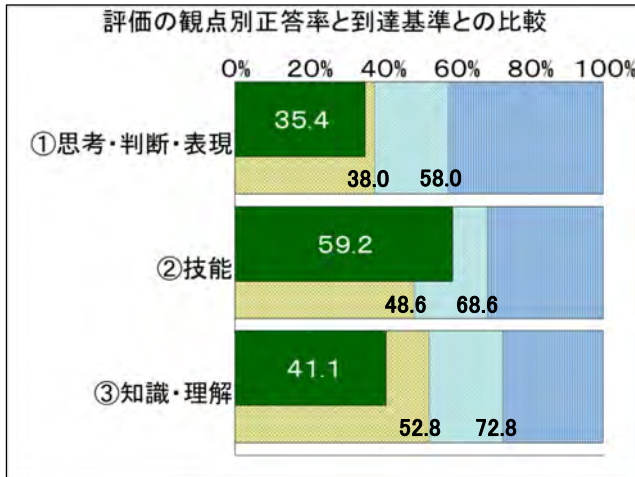
○ 設問ごと正答率



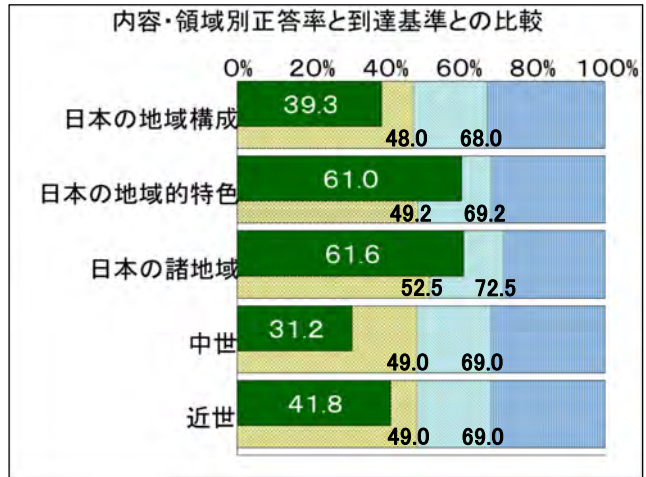
○ 教科正答数度数分布



○ 評価の観点別正答率

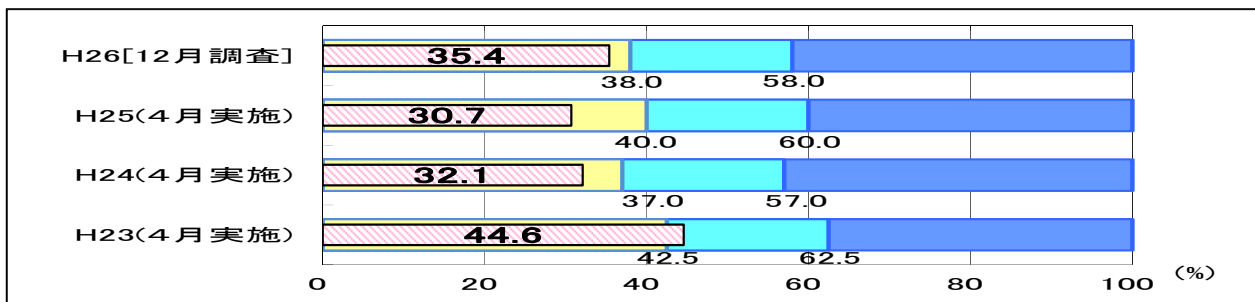


○ 内容・領域別正答率

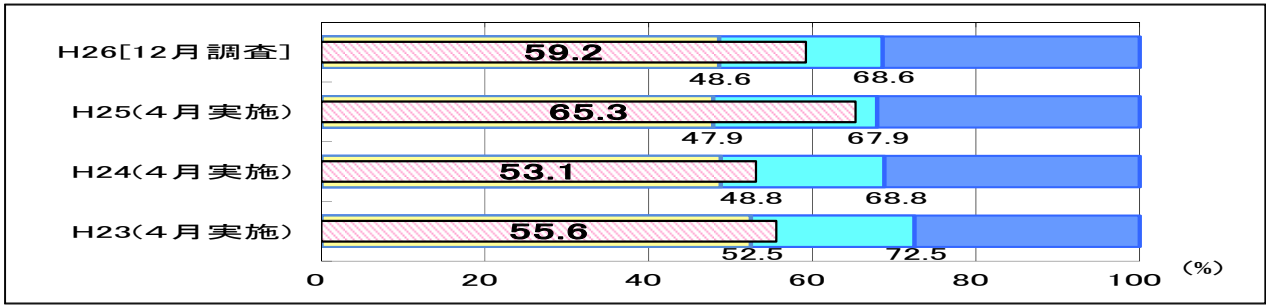


○ 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

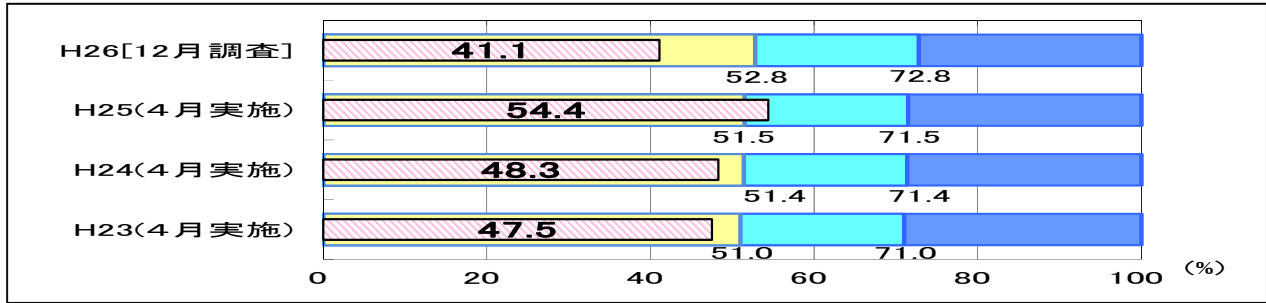
※ 平成25年度(4月調査)までは、中学1年生までの内容で調査。
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能

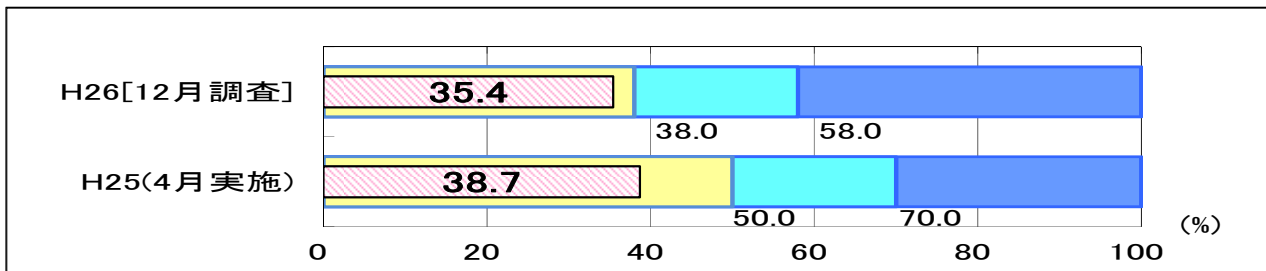


社会的事象についての知識・理解

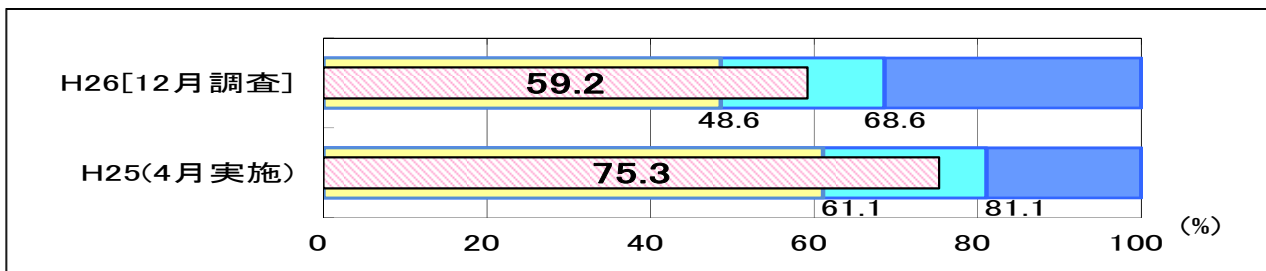


○ 評価の観点別正答率(同一生徒)

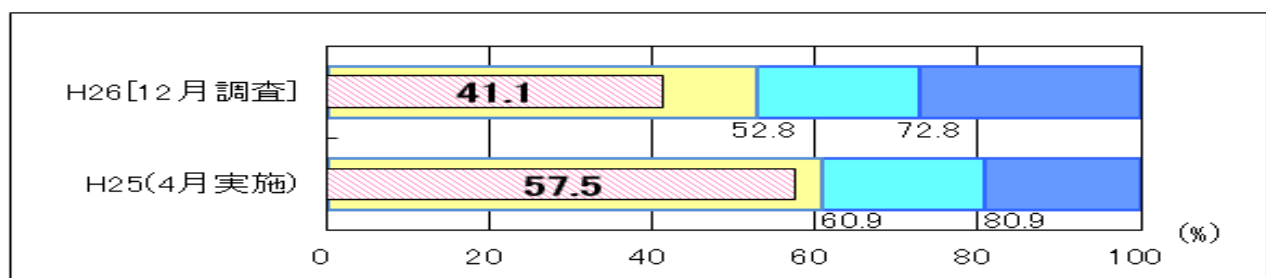
※ 中学1年生時である平成25年度(4月実施)は、小学6年生までの内容で調査。
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能



社会的事象についての知識・理解



(2) 調査結果の分析(成果と課題)

① 中学校全体

- 中学1年生、中学2年生ともに評価の観点「資料活用の技能」は、「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 中学1年生、中学2年生ともに評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的事象についての知識・理解」は、「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。平成25年度調査において課題として挙げられていた「社会的な事象に関わる知識、概念を習得すること」「資料から読み取ったことや自分で解釈したことを説明すること」においては、平成26年度[12月調査]も課題が見られた。

② 中学1年生

- 内容・領域別正答率については、地理的分野の内容・領域「世界の地域構成」「アジア州」において「おおむね達成」の到達基準を上回っていた。
- 内容・領域「アジア州」の「社会的な思考・判断・表現」を問う設問においては、「おおむね達成」の期待正答率を下回っており、課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問3(4)	資料を基に、東南アジア諸国に日本の企業が進出している理由を説明することができる。 (記述式)	企業数の変化と賃金の比較を示した資料を基に、日本企業が東南アジア諸国に進出する理由を条件に合わせて説明する。	27.2	23.6	60.0	40.0

・ 解答状況

資料から、東南アジア諸国に進出する日本企業が増えていること、東南アジア諸国の賃金が日本に比べると安いことが読み取れる。この設問では、賃金が安いということと生産に掛かる費用を関連付けて考えることや条件に合わせて適切に記述することができなかつたのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

生徒の身の回りにある食料品や工業製品に着目させ、生産地を調べさせたり、東南アジアに進出した日本企業の写真や映像などを見せたりすることで東南アジア諸国と日本との関わりについて気付かせる。その後、「なぜ、日本の企業が東南アジア諸国に進出しているのか」を学習課題として設定する。資料を基に調べ、生産面など特定の視点からその理由を考察させることが必要である。

- 内容・領域別正答率において、歴史的分野では「おおむね達成」の到達基準を下回っていた。内容・領域「歴史のとらえ方」の年代の表し方、時代区分についての設問において課題が見られた。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
問4(3)	時代区分の「古代」について理解している。 (記述式)	会話文中に当てはまる時代区分を選択する。	19.9	1.3	70.0	50.0

- ・ 解答状況

この設問は、聖武天皇を示す資料と会話文を参考に文章中に当てはまる語句を選択する設問である。歴史の流れをつかむ基本となる年代の表し方や時代区分についての理解が不十分だったのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

黒板の年表に小学校で学習した歴史上の人物などを提示し、人物の分布に注目させながら、時代区分に気付かせる。また、それぞれの時代ごとに、どのような出来事があったかを発表させながら時代ごとのイメージをもたせる。その中で「貴族や天皇が活躍した時代」というように大まかな時代像を捉えさせ、「原始」「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」の時代区分を確認させる。学習を進めるにあたって、年代の表し方や時代区分については、各単元の導入やまとめを行う際に継続的・計画的に扱う必要がある。

② 中学2年生

- 評価の観点別正答率について、到達基準を1とした値で同一生徒の経年比較をすると、「社会的な思考・判断・表現」は平成25年度調査より上回っている。
- 内容・領域「日本の諸地域」については、平成25年度調査で内容・領域別正答率において「おおむね達成」の到達基準を下回っていたが、平成26年度[12月調査]では「おおむね達成」の到達基準を上回っており、改善が見られた。
- 内容・領域別正答率については、地理的分野の内容・領域「日本の地域構成」において「おおむね達成」の到達基準を下回った。

- ・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
H26 中2 問1(1)①②	北方領土である国後島と択捉島の名称と位置を理解している。 (短答式)	資料に示されている北方領土である「国後島」と「択捉島」を答える。	15.5	26.6	75.0	55.0
H25 中3 問1(1)①②			21.8	24.9		

- ・ 解答状況

この設問は、平成25年度調査(中学3年生)と同一の設問である。平成25年度調査(中学3年生)と比較して、期待正答率は6.3ポイント下回り、無解答率は1.7ポイント増加した。北方領土である国後島や択捉島の位置や名称の理解が不十分だったのではないかと推察される。

- ・ 改善・充実に向けて

まず、地球儀や地図を活用し、日本の国土の位置や海洋国家としての特色を理解させる。次に、北方領土が我が国の固有の領土であり、ロシアに返還を求めていることなどを資料から読み取らせる。そして、地図上で北方領土の位置や名称を確認させることで、我が国の領土・領域について理解させることが大切である。また、歴史的分野や公民的分野で取り扱う際にも地図を活用し、位置や名称を確認していくことで理解が深まる。

- 歴史的分野の内容・領域「中世の日本」「近世の日本」において「おおむね達成」の到達基準を下回った。特に歴史的分野の内容・領域「中世の日本」の「社会的な思考・判断・表現」を問う設問において、課題が見られた。鎌倉時代の歴史的事象についての理解が不十分だったのではないかと推察される。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問 4(2)	資料を基に、承久の乱の後、鎌倉幕府の西国に対する支配が強まった理由を説明することができる。 (記述式)	承久の乱前後の幕府のしくみの変化と西国(西日本)の変化を示した資料を基に、鎌倉幕府が支配力を強めていったことを説明する。	14.2	20.9	55.0	35.5

・ 解答状況

資料から、承久の乱後に六波羅探題が設置され、朝廷を監視したことや西国の武士を統制したこと、西国(西日本)に守護や地頭が任命されたことを読み取り、2つの資料を関連させながら鎌倉幕府が支配力を西国(西日本)へ強めていったことを考えることができなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

承久の乱が起こった時代背景や鎌倉幕府と御家人の関係を確認させる。後鳥羽上皇が幕府から政権を取り戻そうとして承久の乱が起こったことや鎌倉幕府と主従関係を結んだ御家人が東国に多かったことを理解させる。次に、承久の乱後に京都に六波羅探題が設置されたことを確認し、その意味や意義を考えさせる。そして、承久の乱で活躍した東国の武士が守護や地頭として西国に任命されたことを理解させる。これらのことを関連させながら、鎌倉幕府が西国へ支配力を強めていったことを考えさせることが必要であるとする。

- 歴史的分野の内容・領域「中世の日本」の「社会的事象についての知識・理解」を問う設問において、課題が見られた。鎌倉時代から室町時代にかけての時代の特色や歴史的事象についての理解が不十分だったのではないかと推察される。

・ 設問の概要

	出題のねらい (出題方法)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
問 5(1)	後醍醐天皇が行った政治改革が建武の新政であること理解している。 (短答式)	後醍醐天皇が始めた新しい政治「建武の新政」を答える。	13.5	42.5	70.0	50.0

・ 解答状況

この設問は、後醍醐天皇について説明してあるカードの空欄に当てはまる語句を答える短答式の設問である。この設問は、無解答率が他の設問に比べると高かった。建武の新政が行われた年代、新政を行った後醍醐天皇やその時代の社会の様子などが理解できていなかったのではないかと推察される。

・ 改善・充実に向けて

まず、蒙古襲来を境に鎌倉幕府の政治が行き詰まる中で、幕府に従わない武士たちが登場したこと、後醍醐天皇が政治の実権を取り戻そうと幕府に不満をもつ御家人や悪党を味方に付け幕府を倒そうとしたことを理解させる。次に、幕府を倒した後に、後醍醐天皇を中心とする政治が始められ、これまでの武家のしきたりを無視したことや天皇に権力を集めた政策を行ったことを理解させる。そして、それらの政治改革に不満をもった武士や農民、貴族がいたことを理解させ「なぜ、足利尊氏は兵を挙げたのか」という学習課題を設定し、考察させることで建武の新政の意味や意義、特色を当時の時代背景を踏まえながら捉えさせることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 社会的事象についての知識や概念の理解と定着

- ・ 基礎的・基本的な知識や概念を一度の学習によって定着させることは難しい。また、授業で知識や技能が定着したとしても、それらを活用して課題を解決するまでには至っていないと考えられる。そこで、学習する際には、適切な学習課題の設定や課題を追求する調査活動、表現活動を行い習得した知識や概念を活用する場面を学習に取り入れていく必要がある。具体的には、資料や作業的・体験的な学習からつかんだ社会的事象を他の社会的事象と比較・関連付けたり、説明したりすることで知識や概念を習得させるような工夫が必要である。
- ・ 単元や授業の前後に小テストなどを実施し、反復的な学習を設定する。単元や授業の導入の部分で、重要語句など一問一答形式で出題し、語句の理解の定着を図る。そして、単元や授業のまとめでは、その語句について説明させるなどの表現活動を行う。その際、事象の背後にある関係性などを見付け、習得した知識や概念を使いながら説明できるように、支援を行う必要があると考える。
- ・ 小学校での学習内容や生徒が身に付けている力について把握し、小学校との系統性を踏まえた学習内容や指導の工夫を行うことも必要であると考えられる。

② 思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実

- ・ 学習指導要領解説には「社会的な見方や考え方を養うことをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味・意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの、言語活動に関わる学習を一層重視すること」¹⁾として、言語活動の充実について述べてある。社会的事象の意味・意義を解釈したり、特色や関連を説明したりするなどの活動など、言語を使って考え、判断し、表現するという学習の充実が必要である。

地理的分野においては、「地図」を十分に活用する。世界の様々な地域の調査や身近な地域の調査において、地図を活用して事象を説明したり、自分の解釈を論述したり、意見交換したりする学習に取り組ませる。

歴史的分野においては、各時代を大観し表現する活動を通して、その時代の特色を捉える学習や政治面などの変革の特色を考えて時代の転換の様子を捉える学習の際に、自分の言葉でまとめたことを表現したり、意見交換したりする学習に取り組ませる。

公民的分野においては、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方をを用いて、政治、経済、国際関係に関する諸事象を捉えさせる。そして、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の意見をまとめたりする学習に取り組ませる。また、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求させ、解決策を考えたり、議論したりする学習に取り組ませる。

これらの学習活動を充実させることによって、「思考力・判断力・表現力」を育むことができると考える。また、日頃より文章で答えさせる指導をすることも必要であると考えられる。一問一答や重要語句を答えさせる質問だけでなく、キーワードや資料を使い事象の特色や事象間の関連を説明させたり、記述させたりする必要のある質問を行う。そうすることで、学習内容についての理解や認識を一層深めることができると思われる。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を取り入れた授業を提案しています。指導のポイントとして、「取り上げるべき社会的な問題の整理の仕方」、「問題を明解にする手立て」、「取り組みやすい授業の在り方」なども紹介しています。

※引用文献 1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説社会編』 平成20年9月 p. 6